

現地視察報告

現地視察校(12校) 平成25年4月19日～6月4日の間に視察を実施

(1) 最近の先進事例(8校)

NO	都道府県	学校名	完成時期	児童生徒数 (小・中) (H25又は24)	クラス数 (小・中) (H25又は24)	学校規模		工事種別	
						小規模	大規模	新築 改築	増築 改修
1	茨城県	つくば市立小中一貫校春日学園	平成24年1月	(1001・203)	(28・7)				
2	福井県	大野市立和泉小中学校	平成18年3月	(14・13)	(3・3)				
3	京都府	京都市立大原学院	平成21年3月	(50・33)	(6・3)				
4	京都府	京都市立凌風学園	平成24年3月	(518・248)	(18・10)				
5	京都府	京都市立花背小中学校	平成21年3月	(21・8)	(6・3)				
6	愛媛県	高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校	平成19年3月	(25・7)	(3・3)				
7	佐賀県	佐賀市立小中一貫校北山校	平成20年1月	(44・18)	(4・3)				
8	長崎県	五島市立奈留小中学校	平成22年12月	(50・47)	(5・3)				

(2) 文教施設研究センターの調査研究*において視察した学校の再調査(4校)

* 小中一貫教育校における学校施設の在り方に関する調査研究(平成19年6月～平成21年3月)

NO	都道府県	学校名	完成時期	児童生徒数 (小・中) (H25又は24)	クラス数 (小・中) (H25又は24)	学校規模		工事種別	
						小規模	大規模	新築 改築	増築 改修
9	福島県	郡山市立湖南小中学校	平成16年10月	(129・69)	(6・3)				
10	宮城県	登米市立豊里小中学校	平成19年4月	(361・182)	(12・6)				
11	神奈川県	川崎市立はるひ野小中学校	平成20年2月	(978・279)	(29・9)				
12	富山県	富山市立芝園小中学校	平成20年1月	(576・349)	(19・10)				

施設関連の特色【規模による整理】

視察校における特別教室等の整備状況

- ・小規模校では、特別教室(理科、家庭科、音楽)を小・中兼用で整備(各1室)している学校が多い。
- ・小規模校では、図工室と美術室を兼用で整備(1室)している学校が多い。
- ・新築(増築)小規模校の体育館は、小・中兼用で整備(1棟)されている。

小規模校

都道府県	学校名	児童生徒数 (小・中) (125又は24)	クラス数 (小・中) (125又は24)	工事種別		特別教室等の数											
				新築 改築	増築 改修	理科	家庭	音楽	図工	美術	技術	外国語	生活	コン ピュー タ	図書室	体育館	
福島県	郡山市立湖南小中学校	(129・69)	(6・3)		○	小1 中1	1	1	1	1	2	1			小1 中1	小1 中1	2
宮城県	登米市立豊里小中学校	(361・182)	(12・6)		○	2	1	2	1	1					1	1	2
福井県	大野市立和泉小中学校	(14・13)	(3・3)		○	1	1	1	1	1					1	1	0 (隣接する社体を使用)
京都府	京都市立大原学院	(50・33)	(6・3)		○	小1 中1	2	1	1	1					小1 中1	小1 中1	2
京都府	京都市立花背小中学校	(21・8)	(6・3)	○		1	1	1	1	1					1	1	
愛媛県	高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校	(25・7)	(3・3)	○		1	1	1	1	1					1	1	1
佐賀県	佐賀市立小中一貫校北山校	(44・18)	(4・3)	○		1	1	1	1						1	1	1
長崎県	五島市立奈留小中学校	(50・47)	(5・3)	○		小1 中1	2	1	1	1					1	1	1

大規模校

都道府県	学校名	児童生徒数 (小・中) (125又は24)	クラス数 (小・中) (125又は24)	工事種別		特別教室等の数											
				新築 改築	増築 改修	理科	家庭	音楽	図工	美術	技術	外国語	生活	コン ピュー タ	図書室	体育館	
茨城県	つくば市立小中一貫校春日学園	(1001・203)	(28・7)	○		小1 中2	2	小1 中1	1	1	1			2	小1 中1	小1 中1	2
神奈川県	川崎市立はるひ野小中学校	(978・279)	(29・9)	○		小1 中2	2	2	1	1	1	1			2	1	2
富山県	富山市立芝園小中学校	(576・349)	(19・10)	○		小1 中2	2	小1 中1	1	1	1	1			1	1	2
京都府	京都市立凌風学園	(518・248)	(18・10)	○		3	2	2	1	1	1				2	2	2

施設関連の特色【個別整理(普通教室)】

- ・小学校と中学校の校時の違いによる音の問題が多く見られた。
- ・低学年の教室には小部屋を設けるなど、低学年と高学年で教室の仕様に变化を与えている学校も散見された。

- ・校時が小学校と中学校で異なるため、定期テストなどの際は、音が気になるが、教室の扉を閉めて対応しているとのことであった。
- ・教室には教師コーナーが設けられており、広い教室では82m²となっていた。
- ・小学1, 2年生の教室に整備されたパオ(小部屋)や、各学年の小教室は少人数指導や話合いの場として活用されていた。
- ・1~4年生は、外から直接普通教室に入ることができるように整備されていた。5~9年生は校舎1階の共通昇降口から校舎に入る。
- ・教室や廊下には、掲示スペースが少ないため、備品として掲示ボードを使用するなどして、掲示スペースを確保していた。



教師コーナーを考慮し整備した普通教室



教室内に設けられたパオ(小部屋)

施設関連の特色【個別整理(オープンスペース、多目的スペース)】

- ・多目的スペース等は利用頻度が高く、異学年交流の場としている学校もあった。
- ・規模設定や、音の問題等を考慮して計画することが必要という意見があった。

- ・巨大な地図を用いた学習が行われているオープンスペースがあったが、施設的な自由度が学習活動の可能性を広げていることが実感できた。
- ・各フロアにある大規模なホール型のオープンスペースは学年単位の活動が限度であり、ステージ規模の集団には対応できず、ステージ単位では大小の体育館を利用していた。規模によって、ステージ単位の交流空間をどう用意するかは一つの課題であると思われる。
- ・多目的ホールは、小学校の全校集会、ミニコンサートや体育祭の時の地域の方々の発表を行う場等として活用していた。
- ・多目的ホールは、入学式、卒業式、給食などで活用し、利用頻度が高いとのこと。
- ・校舎1階中央には、コモンスペースが整備されており、ランチや全校集会、発表の場として使用されていた。また、コモンスペースのまわりに普通教室が配置されており、休憩時間などは、異学年交流が行われていた。ただ、声が反響したり、教室のドアを閉めても小学生の甲高い声が聞こえ授業に支障を来したりするなど、課題もあるとのこと。



オープンスペースを使用した授業



入学式や給食等に使用する多目的ホール



校舎1階中央に整備された共通空間

施設関連の特色【個別整理(特別教室)】

- ・理科室、家庭科室は、小中共有している学校が多い(机や椅子の高さを変えるなど、体格差に配慮)。
- ・音楽室は、多目的スペース等と隣接させて一体的に使えるよう整備している学校もあった。

- ・理科室や家庭科室は共有。理科室は、高さが調整できる実験台を整備していた。また、家庭科室には、高さの異なる調理台を整備し、児童生徒の体格差に配慮していた。
- ・理科室は3つあり、第1理科室は6年生までが使用し、第2, 3理科室は5~9年生が使用していた。各室机・椅子の高さは固定であるが、流しの高さを変えている。
- ・図工室は美術室と兼用していた。
- ・音楽室は、多目的ホールと一体的に使えるよう隣接して整備されていた。
- ・音楽室は準備室と一体で使えるよう可動間仕切りで仕切られていた。5~9年生が共有。
- ・家庭科室は、もともと中学校側にあった家庭科教室を共有。小学校低学年は、高さの低い長机を設置して対応。理科室や音楽室等の他の特別教室は、小、中それぞれ元々の校舎の室を使っていた。
- ・特別教室は共有。理科室は椅子が高さ調整できる。家庭科室は5年生から利用するため机・椅子は固定式。



施設関連の特色【個別整理(職員室)】

・職員室は、小中合同が多く、打合せスペースの整備ニーズが高い。

- ・職員室の一体的整備は教員間の一体感を生み出しており、絶対に分離整備すべきではないとのコメント有。
- ・校務センターは、小中合同。積極的なICTの導入が図られており、大人数を擁しているにもかかわらず極めて機能的で整然としていた。オープンな作りである一方で、女性教員を意識したコーナーなども設けられており、円滑な交流と快適性が両立した職員室であった。
- ・職員室は合同。職員室内にお互いの連携・交流のため、打合せスペースが整備されていた。
- ・小中一貫校にするに当たって、職員室を改修整備していた。限られた財政状況の中で限定的に整備された事項の一つが、小中合同の職員室であったことは、小中一貫教育校において、いかに教員の密接な連携が重要であるかを象徴している。
- ・既存施設の活用なのでやむを得ないこととはいえ、校長室と職員室が離れていることや、職員室と各期の普通教室が遠いことは気になる。



施設関連の特色【個別整理(図書室)】

・図書室を異学年の交流の場としている学校が多い。

- ・図書室は、学齢を意識したゾーンが設定されていたが、全体的にはまったく間仕切りがなくオープンであり、異学年の自然な交流が期待できる空間であった。
- ・図書館は、日常的な利用や伝統的な図書館関連行事等を通じ小中交流の場となっていた。



オープンなつくりの図書室



小中交流の場になっている図書室

施設関連の特色【個別整理(ランチルーム)】

・ランチルームは給食だけでなく、地域連携の場など、多目的に活用している学校が多い。

- ・全校の児童生徒が一斉に食事ができるランチルームは、学校と地域の連携を進める上でも、有効に活用していた。
- ・ランチルームは、1学年全部と1クラスが座れる規模となっていた。保護者会や、プレゼンの場としても使用しているとのこと。
- ・ランチルームの稼働率は高く、給食以外でも多目的に活用されていた。



地域連携のためにも活用するランチルーム



多目的に利用され稼働率の高いランチルーム

施設関連の特色【個別整理(体育館・プール)】

- ・体育館、プールは、安全面等に配慮し、小中別々に整備している学校があった。
- ・体育館やプールは、近隣の施設を有効活用している学校もあった。

・体育館やプールは、小中学校の教育課程がより安全に、また、効果的に行えるよう、別々に整備されていた(中学校は、既存の体育館・プールを使用)。

・体育館は、農業分野の補助を受け建設したものであり、入学式や卒業式等で使用しているとのこと。水泳の授業は徒歩圏にある国民休養地のプールを使用していた。

・プールは稼働床となっていた(中学校はプールの授業がない。)また、冬期には人工芝を張りスキーの練習場として使用しているとのこと。



体育館は「農林業者トレーニングセンターを活用」



プール。冬期は人工芝を張りスキーの練習場として活用

施設関連の特色【個別整理(その他(保健室等))】

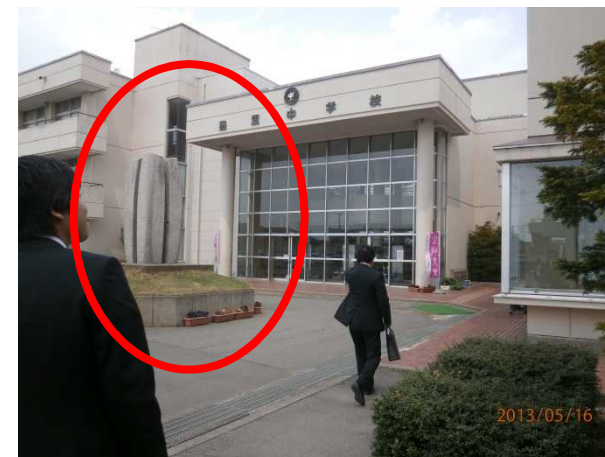
- ・保健室は、体の発達の違い等から、小中別々が良いとの意見が多い。
- ・統廃合を伴う場合は、統合前の学校の資料等を展示する空間を整備するなどの配慮が行われている学校があった。

- ・保健室が小中共有であったが、小学生がいると中学生は入りにくいし、中学生がいると小学生が入りにくいという面がある。この点については、十分検討の余地がある。
- ・保健室は共有であったが、小と中では体の発達等も違うので、共有しづらい面があるとのこと。カウンセリングルームを使って対応する場合もあるとのこと。
- ・統合前の5校に関する資料等が大切に保管・展示されている郷土学習室、語り部の部屋は、統廃合によって小学校が遠のいたと寂しさを感じる地域の人々にとって、オアシスとなるであろう。
- ・玄関にモニュメントがあったが、このような地域の歴史的な事実を子どもたちに伝えていくものも学校施設の一部としては大切である。

統合前の学校の資料等の展示空間



玄関前のモニュメント



再調査校における施設利用状況の変化について

川崎市立はるひ野小中学校《児童生徒数 増》

1. 児童生徒数：598名（H20.6） 1,285名（H25.4）
2. 学級数：22学級（H20.6） 42学級（H25.4）

3. 施設利用状況：

- ・児童生徒数が大幅増したことにより、多目的室や小教室等を普通教室として使用
- ・今後普通教室が足りなくなることが想定されるため、現在、約4,000㎡の校舎を増築中

富山市立芝園小中学校《児童生徒数 増》

1. 児童生徒数：720名（H20.5） 944名（H25.5）
2. 学級数：26学級（H20.5） 35学級（H25.5）

3. 施設利用状況：

- ・児童生徒数は増えたが、校舎建設時に児童生徒数の増を予測して普通教室を整備していたため、対応可能

郡山市立湖南小中学校《児童生徒数 減》

1. 児童生徒数：256名（H20.1） 198名（H25.5）
2. 学級数：10学級（H20.1） 9学級（H25.5）

3. 施設利用状況：

- ・児童生徒数が減少したことによる余裕教室を多目的室として活用

登米市立豊里小中学校《児童生徒数 横ばい》

1. 児童生徒数：557名（H19.11） 551名（H25.5）
2. 学級数：23学級（H19.11） 24学級（H25.5）

3. 施設利用状況：

- ・英語の授業を普通教室で実施することとなったため、外国語教室を少人数指導教室として使用。多目的室についても、少人数指導教室として使用